



くらはし

舞鶴市立倉梯小学校
学校だより 4月号
令和8年4月7日

— 新年度を迎えて —

与保呂川沿いの桜が、今年も見事に満開を迎えています。やわらかな春風に揺れながら、川沿い一面を淡い桜色に染める光景は、私たちの心を和ませ、新たな出発の季節が訪れたことを実感させてくれます。その桜の下を、多くの子どもたちが登校してきます。新しい学年、新しい仲間、そして新しい学びが始まるこの四月を迎え、子どもにとっても大人にとっても期待と希望に胸をふくらませる特別な時期であることを、あらためて感じさせられます。

本校では、4月7日に始業式を行い、子どもたちはそれぞれ一つ上の学年での学校生活をスタートさせました。新しい教室、新しい先生、新しい友だちとの出会いに、少しの不安と大きな期待を胸に抱きながら、子どもたちは新年度の第一歩を踏み出しました。

4月9日には入学式を挙行し、57名の新一年生を迎えます。緊張の面持ちで保護者の皆様と手を取り合い登校する姿は、きっと学校全体を明るく照らしてくれることでしょう。入学式後は全校児童数374名となり、学校には再び元気な声と笑顔があふれることとなります。

本校は、今年度、創立153年目を迎える歴史と伝統ある学校です。明治の時代に産声を上げて以来、社会は幾度も大きな変化を経験してきました。戦争や復興、高度経済成長、児童数増加そして情報化社会の進展など、激動の時代の中にあっても、本校は一貫して校区の子どもたちの教育に向き合い続けてきました。その長い歩みを振り返ると、先人たちが積み重ねてこられた努力と、学校に寄せられてきた地域の深い信頼の重みを、校長としてあらためて強く感じています。

創立100周年記念誌の冒頭には、「学校は、その土地の社会の断面である」と記されています。また、創立150周年記念誌には、「時を超えて」「学校は地域の誇り」という言葉が寄せられています。これらの言葉は、学校が単に知識を教える場ではなく、地域の歴史や文化、人々の思いを映し出し、未来へとつないでいく存在であることを示しています。こうした地域の願いと期待をしっかりと受け止め、教職員一同、心を一つにして学校教育を前へと進めていく決意です。

長い歴史の中で世相は変わっても、私たちの町の学校として課せられた責務に変わりはありません。子どもたちは将来の社会を担う、かけがえのない存在です。今年度も引き続き、「こどもよし、保護者よし、地域よし、教職員よし」の「四方よし」を大切にしながら、子どもたちが「今日も学校が楽しかった。」「明日も新しいことを勉強したい。」と思える魅力ある学校づくりを進めてまいります。

一本の桜の木には無数の花が咲き、全体として美しく彩るように、本校でも一人一人の児童がそれぞれの個性や力を発揮し、その集まりとして学校が形づくられています。日々の教育活動の中で、子どもたちが互いに認め合い、学び合いながら成長していく姿を大切にしていきたいと考えています。

今年度も、保護者の皆様、地域の皆様には、変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。一年間、どうぞよろしくお願ひいたします。

校長 四方 直人